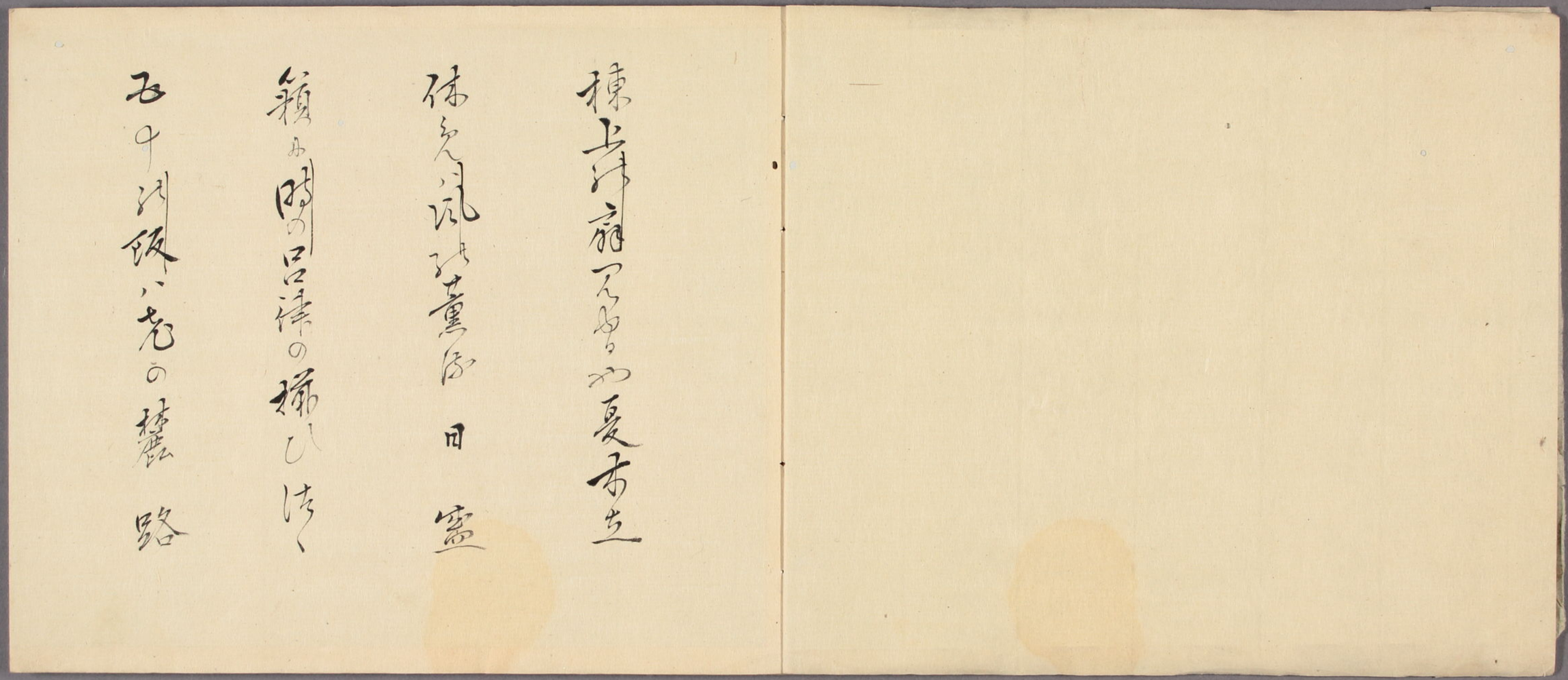
X

X



棟上祝詞の事

夏市立

休息所設置の事

日窓

穎ヵ時の呂律の揃ひ方

五十川飯八老の樵路

旅別れ小付に鶯の事是ハ

昼鶏明ける鶏の　春

指折ハ最ハ名月遠ク涙

置流ル露ハ草の戸

机寄ル錦し既ニ冴ちまさ

鉅橋

乳人ハ叫ぶ時を鳥病

鉅橋

心寄キ橋あし連理の有と仆

鉅橋

湖ハ氷て冴ル澄　峰く

鉾橋
容易く泊船順流獨旅

鉾橋
世はなりつゝ這入る詩壇

製糸は幕に加へ剣と屑　李楓

○百里或百里松茸の見弟

少は端に傾き月は西に

鉾橋
書を引き劇に身を捨ひて紙

風防に桃園風の薄の穂

行基は作の法体玉の緒

一番を好まれた清盛の茶

妻の菊姫を思ひ

船出の時に陸奥の富士麗

鉦橋

寵愛の中の添ひ柏子

鉦橋

内助の妻の者達夫婦連

鉦橋

斑の白髪に根立白彩

下関の月に氣魔の鉦橋

鉦橋

赤貧洗ふ国の米

鉅橋

髓と何僧らを捨てし

鉅橋

拭拭くり拭を行きる俳句

鉅橋

達磨八寿て立と素浪人

鉅橋

姫御を抱へ打釘

閑八撫子初雪情の字ゝ　嘉　連山

鉅橋

雪の三とも八夢は浮橋

赤ゝと梅の影淋し

蓮も潜ゝ草に聞蛍

山々に詠られし歌の地理　離住

金ゝ口きく〳〵縁のとも　綱

かゝら合ひつゝ乱ざくさと　両撞木

こやぶこゝ〳〵す烟霞海を吹

質種の数政〳〵利勘定　立明

鉅橋

降こゝ知ト偽雪に枝垂

香九の目紫月の文子鳥

根岸翁に粹お右迂

[illegible]の[illegible]に[illegible]の制一切

鉅橋

四季[illegible]厨[illegible]多[illegible]

[illegible]

鉅橋

國の[illegible]を又[illegible]言[illegible]

[illegible]

鉅橋

[illegible]

○賽に[illegible]

鉅橋

烟草は大きにおし休み給へ

鉅橋

義しにはを元指宮殿の奥

鉅橋

おなを信をくる雷侍姫皇帝

鉅橋

酒の城を義てうつと足

鉅橋

狂婦の呼吸を連るかしかの鐘

鉅橋

雪の元の持ちて　雪

慶尚の諸[illegible]　嘉慶

ミテウと知て俗迷過て嘉石

温泉煙花里ふるく少きを　明

鉅橋

美ふ雲ゐ月と隣をとゝかゝ

荒かゝる軒端ふの一字　顔

鉅橋

鶏の樹嬉霧を洗ふ心く

鉅橋

島畑ゆゑ社ふ静る　楓

鉅橋

長御寿をさうてる詩のうれし

鉅橋

夏足り上のふ足ふ孫の　唖

○名主三代者ほ新鄙　菊

六月九日の歌仙　楓葉の蘭

鉅橋
白く流れし化粧場の跡

鉅橋
雲行方神秘靄かすみ之形　山

鉅橋
筆を抛げる亜行卿の姿

鉅橋
素人の引用張の屏風笑ひ

○
捨て模様の石碑は重

鉅橋
若何遠く眺ゆるよし

鉅橋
行芝翁年賀よ刻物

散り無月の滝の流れを
ぬるこし水と流るゝ　盃

二味線の音ばかりまぎらはす人

鉅橋
無病で現く廓の廓　先

きりつとも人相書の巻仕舞　山

人は皆よしあるものの世の中

鉅橋
利生りの定の家業の金のふけ

鉅橋
そばの絹を食べた先へ

鉅橋

國捨て迄の重耳の腹古さ

手繰涯の跡へ白浪

暮る春の社寺一茶の句

二階に居て思ひ寒

京 靜池

鉅橋

唐もろこしの舟よ涙の鐵帝

丈夫当てにたゝぬ女考

杉樹を折れば月の小夜嵐

鉅橋

旅籠へ入る秋の遊歴

世に捨て蓑毛庵よ身を潜ん

鉾橋

秘蔵の糸目凧を飾ん

鉾橋

御ハ家伝小者の　下男

又ひきつてとぬかす　紺掻

鉾橋

何心入らぬ白洲の名代年

海氣絞の庭　鶴子

道下もいとん遠ゝ好き　山

鶴蒔絵　よ毒の言の葉

李楓

天 百十四点 李楓

地 八十五点 五明

人 八十四点 連山

[illegible]

[illegible]殊勝[illegible]求る方実情
[illegible]

[illegible]軍の関[illegible]

[illegible]俗[illegible]雅[illegible]
西口雅[illegible]風流の[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]
[illegible]風雅の[illegible]箱の[illegible]冥[illegible]
[illegible]徳[illegible]名主三代[illegible]陽鼓[illegible]
[illegible]
[illegible]